所　属	健康福祉学研究科 （別科助産専攻）	氏　名	浦山　晶美

出身地は石川県です。県庁所在地の金沢は城下町で私の大好きなところです。私は加賀百万石の文化で育ち、海外での生活体験もあることから、多様性があることを自らの取り柄としております。どうぞ、よろしくお願いします。

担当科目	看護科学特論（前期課程）

探究心を持って自分の信じることを極めていただけたら嬉しいです。目的意識をもって人の役に立つことを成し遂げてください。

ゼミでは、主体性をもち、かつ調和の精神で協議をしていただき、新たな発見に繋がるような有意義な会話を心がけています。

所　属	健康福祉学研究科 （学長）	氏　名	加登田　恵子

学部では、社会福祉原論・社会福祉発達史等を担当しています。

30 年来、地域の民間福祉活動に何らかの形で関わらせていただき、山口では、障害児の在宅支援、障害青年の地域生活支援、DV 被害者支援等の 3 つの NPO を立ち上げました。日本社会福祉学会ほか、日本福祉文化学会、日本ソーシャルワーク学会の会員でもあり、地域における福祉文化活動の展開に向けて古民家を拠点とした＜コミュニティ・カフェ>活動を仲間とともに始めました。（草取りが一番好きな作務です）

研究方法としては、個人や団体・地域等を含む、福祉文化論的実践史研究や調査史研究が得意です。また、客員研究員としてスウェーデンに滞在した経験があり、国際比較研究では北欧を視野に入れています。その他、最低賃金審議会や山口県の総合戦略会議、山口市の地域活性化政策、山口県や防府市の防災計画づくり、山口県の健康２１推進計画等、政策立案に関する多様な協議会関わっておりますので、労働者福祉・地域活性化・防災等に関する情報や関係機関等の社会資源を紹介できると思います。

担当科目	社会福祉学特論（前期課程）

ゼミは、その年の履修者のニーズに合わせて、柔軟に、「社会福祉の政策的展開」「社会福祉の実践思想」「現代の福祉課題」を取り上げてきました。

近年は前期開講科目なので、M1 院生の要望にそって、『社会福祉研究法～現実世界に迫る 14 レッスン』等を題材として、各自の問題意識→論文テーマの設定→研究方法とのマッチングの作業のお手伝いもしています。

社会福祉研究は、「学際的」領域であるためアプローチが多彩であるだけでなく、若い学問ですので体系的には未成熟の面も多いですが、現実の人間の生活をできるだけトータルにとらえ、人権尊重という社会的価値を基盤に、問題解決に向けて実践的課題を見いだし、実証的な科学的検証を行う、等々の特色があります。

日頃のお仕事の方向性を見失ったり、今までにやってきたことはどういう意義があるのだとうかと振り返ったり、これからの社会福祉はどうなるのだろうかと考えてみたり・・・。

何よりも、学びの仲間とのディスカッションが、今までの自分の思考の殻を破り、新しい世界を知る機会となることと思います。そういった、刺激を求めて、是非本大学院におこしください！

所　属	健康福祉学研究科 （社会福祉学部社会福祉学科）	氏　名	草平　武志

大学の学部時代は、社会学を専攻し、社会事象に関する問題意識や研究方法論の重要性について学びました。学部卒業後は、10 数年間行政機関において社会福祉の実務を執っておりました。

地域福祉、コミュニティソーシャルワークを専門としております。

担当科目	地域福祉学特論（前期課程）

今日、子育てや高齢者福祉の問題など社会福祉問題が特定の人の問題ではなく、すべての国民に深くかかわる問題として捉えられるようになってきました。一方で、子どもの貧困、生活困窮者、ひきこもりの問題など地域社会に潜在化した福祉課題も山積しています。

こうした地域課題に関して、フィーマルケアとインフォーマルケアの関連を踏まえて、市町村や生活圏域における保健医療福祉の実践について、検討を行いたいと考えています。

所　属	健康福祉学研究科 （社会福祉学部社会福祉学科）	氏　名	坂本　俊彦

その成果を問われると恥ずかしい限りですが、社会調査の手法を活用し、地域課題の解決に役立つ研究と教育に取り組みたいと願っています。

担当科目	老年社会学特論（前期課程）

長年に亘り地域貢献事業に従事した経験を踏まえ、地域住民・団体による地域課題解決能力の向上に資する実践志向の調査研究をライフワークとしております。また、個人を対象とする質問紙調査の設計・実施・集計・分析・報告書作成・政策提言を多数行っております。これらのノウハウをお役立てできることがありましたら、どうぞご遠慮なくお尋ね下さい。

○現在の研究テーマ

（１）高齢者の生きがい／社会参加を支える住民相互扶助活動についての研究

- 高齢者見守り活動
- 高齢者ふれあいサロン
- シニアの地域デビュー

（２）住民自治活動の促進方法ならびに住民自治組織の運営支援についての研究

- 地域課題解決を目的とする官民の協働
- 住民自治組織の運営
- 地域づくり計画の策定
- 地域づくり人材の発掘・育成
- コミュニティ交通の運営

所　属	健康福祉学研究科 （看護栄養学部栄養学科）	氏　名	園田　純子

日常茶飯事という言葉があるように、ご飯とお茶は人々の生活の中に溶け込んでいたはずなのですが、最近お茶の飲み方が変わってきたことを憂えています。

お茶は一服の清涼剤、忙しさの中でも、日々お茶をいただく時間を大切にしたいと思っています。

担当科目	食生活科学特論（前期課程）

近年、若者の食意識の低下が叫ばれていますが、食事のマネジメント能力に大きく関わる調理技能（特に包丁技術）について、着任した年より取り組んできました。また、前任校で担当していた小児栄養や食生活論との関わりを通し、この二十年来、食教育（食育）をキーワードに教育・研究を続けています。

私の専門分野は調理学ですが、「調理」は食事作りの最終段階を担っており、その具体的な食事計画には、食品の選び方、栄養、嗜好性、調理操作、食品の調理特性、食卓構成、供食、食文化と、幅広い内容を含んでいます。日々の食生活の中で、ふと疑問に思うこと、大切にしたいと考えることを追及していくのは、とても楽しいものです。

食生活科学特論では、現代日本の食生活の実態とそこから抽出される食生活上の問題点をふまえ、我々が目指すべき食生活とはどのようなものかについて、食に関わる様々な側面から解釈を行っていきます。さらに、子どもや若者だけでなく、成人・高齢者にとっても重要となる「食育」についても検討を行います。

所　属	健康福祉学研究科 （看護栄養学部看護学科）	氏　名	中村　仁志

若い頃は子ども達と遊ぶことが仕事でした。
ちょっと、こころを痛めた子ども達と一緒に遊ぶことで、子ども達が少しでも元気になってくれたらいいなと思っていました。
段々、年を取ってくると子ども達の動きについて行けません。
でも、やっぱり子ども達と一緒に遊びたいし、元気な笑顔を見たいです。

担当科目	精神保健福祉学特論（前期課程）

子どもたちが被害者や加害者になっている事件が起こる度に、現在は子どもにとって生きにくい世の中になっているのかも知れないと思います。子どものこころの問題を考え、子どもが健康に成長する手助けができればと思っています。
授業では社会で起こっている様々な出来事、事件を取り上げ、その背景にあるこころの問題を、保健の視点、福祉の視点また受講者の視点などから考えていく授業を行っています。
子どもが穏やかで、のびのびと成長できる環境作りを一緒に考えましょう。

所　属	健康福祉学研究科 (看護栄養学部栄養学科)	氏　名	乃木　章子

山口県出身、双子座、血液型 O 型（最近はなぜか A 型と間違えられることが多い？！）

島根県の病院の管理栄養士として勤務の後、本学にお里帰りし 10 余年が経ちました。

若かりし頃はテニスにスキーに海遊びにとあっちこっちを飛び回っていましたが、最近はもっぱらパークロードや亀山公園、一の坂川沿いを愛犬とお散歩したり、旬の野菜やお魚を求めて商店街を歩き回る山口市民になりきっています。

担当科目	臨床栄養学特論（前期課程）

病院勤務時代の経験から、治療よりも予防が大切と痛感し、教育・研究職に転身しました。生活習慣病予防を目的に、学習と自己選択に基づく行動変容支援プログラムの開発とそのプログラムを用いた介入研究を行ってきました。肥満、メタボリックシンドローム、糖尿病等の肥満を基盤とした疾患と生活習慣との関係に注目し、そこで出会った方達から得られた多くのメッセージを教育や研究に活かしていきたいと考えています。

健康福祉学研究科博士前期課程の臨床栄養学特論の受講生には、栄養学を学んだ方も全く栄養とは無縁だった方も居られるため、授業のテーマや構成は受講生と話し合いながら決めて、進めて行くようにしています。テーマは、皆さんがそれぞれの職場で抱える栄養問題であったり、経験のなかで遭遇した食・栄養に関する事象であったり、あるいはご自身の食行動であったりと様々です。

人はどんなに小さな習慣でも、なかなか変えられるものではありません。けれど、変えようと心に決めて一歩を踏み出すことで、ワクワクしたり、ドキドキしたり、昨日と違った自分に出会えてちょっと心地よくなることがあります。一方で、本当にできるのかしら・・・と不安になることもあります。この点は、テーマが健康でも、勉学でも同じと思います。

行動変容を達成するには、自分に合ったプログラムに出逢えること、共に学び合える仲間が居ること、意欲を持ち続けることが重要な要素になります。これまでと一味違う自分になりたいと思う方は、どうぞ本学の大学院を訪ねてみてください。

所　属	健康福祉学研究科 （社会福祉学部社会福祉学科）	氏　名	長谷川　真司

大学院時代は、貴重な経験を積むことが出来る機会が多くあります。出会いを大切にし、専門的な領域またそれ以外にも幅広く興味を持ち、学びを深めそして視野を広げて欲しいと思います。

担当科目	健康福祉学特論（前期課程）

研究活動としては、地域福祉、コミュニティソーシャルワーク及び NPO に関連した研究を行っています。現在は主に、地域福祉の分野において歴史的に重要な役割を果たしてきた民間非営利組織に関して、資金面から支えていた民間財源、特に民間助成財団に焦点をあて研究を進めています。また、地域を基盤としたソーシャルワーク（コミュニティソーシャルワーク）の研究にも力を入れています。

授業では、研究の進め方や研究方法論等について学生同士が考える機会を持つことができるように、また実践を研究に結びつけることができるように、そして大学院での研究を円滑に行うことができるように手助けができればと思っています。

所　属	健康福祉学研究科 （看護栄養学部栄養学科）	氏　名	弘津　公子

私の趣味は、硬式テニスです。週末は、できるだけテニスコートに出向き汗を流しています。私の所属するクラブはシニアの方が大半で、75 歳以上の方も沢山います。皆さん、元気でボランティア活動等もされ、非常に活動的です。「アクティブエイジング」の実践者ばかりですので、今後のお手本です。いつも、こんな年の重ね方をしたいな・・・と感じています。

担当科目	健康福祉学特論応用演習（前期課程） 地域栄養学特論（前期課程）

私は、「高齢者の生活習慣と ADL 並びに口腔機能との関係」を明らかにすることを目的に、フィールド調査を中心に研究を行っています。

私の専門分野は応用栄養学です。食生活や栄養状態と ADL や咀嚼能力、口腔粘膜免疫との関係を中心に検討しています。これまで、山口県内の市町で老人クラブやサロン、運動クラブに所属する地域の高齢者の皆様 500 人位に、ご協力をお願いしました。私のフィールド調査は、質問紙だけでなく、身体計測や体力測定、咀嚼力の判定等を併せて行うため、一度に沢山の方を調査することはできません。そこで、ご協力頂いた皆様方、すべての方に個別の結果をお返しし説明することで、その後の健康づくりや介護予防に役立てて頂くことを心がけてきました。

大学に着任する前は、介護保険の施設に長らく勤務しました。社会人と院生の二束わらじで、本学の博士前期課程・後期課程を、長い時間をかけて修了しました。健康福祉学を学ぶことは、現場で勤務される皆様方の「？」の答えに繋がることだと思います。自分のペースで、無理せず継続して、修了して頂きたいと思います。

所　属	健康福祉学研究科 （看護栄養学部看護学科）	氏　名	藤村　孝枝

臨床、行政保健師、保健師教育機関の講師を経て、本学に参りました。

看護学科では、在宅看護論、保健師教育を担当しています。

人様に語れるような趣味はありませんが、春は薔薇、秋はコスモス畑を求めて県内、近県をウロウロしています。

担当科目	地域看護学特論（前期課程） 健康福祉学特論応用演習（前期課程）

「地域看護学特論」では、様々な職種、背景の受講者の方々の興味・関心をお聞きしながら、共通の関心事を探しつつ、地域保健活動について理解を深めて頂くようゼミ形式で展開しています。異文化交流を楽しみながら、相互理解を深め、自分の専門性を確認する場となっています。

研究の関心事は、地域ケア、介護予防、健康教育、組織活動等々保健師活動に関するものですが、院生の方の研究テーマに合わせて、一緒に考えていきたいと思います。

所　属	健康福祉学研究科 （看護栄養学部栄養学科）	氏　名	増成　直美

常夏広島のスキーヤーでした。総滑走日数は、330 日。朝から晩まで滑っていました。
ダイビングや登山も、人の後を追いながらですが、ハワイや桜島、北穂高岳や槍ヶ岳で経験しました。
運動が好きですが、体型に反映していません。

担当科目	健康福祉学研究法特論（前期課程）

これまでの研究領域は、疫学と医事法です。疫学研究者としては患者様の診療情報が 1 件でも 1 項目でも多く欲しいと思う反面、医事法研究者としては患者様のプライバシーの権利の保護を憂慮しつつ、葛藤する日々を送っています。

目標としては、疫学と医事法に携わる者として、患者様の診療情報を保護しつつ、同時に疫学研究等への診療情報の利活用の方法を検討し、医学の発展に寄与する道を探っています。

大学院生さんへ期待することは、学問の楽しさを経験していただきたいと思っています。自分の興味あることを一心不乱に突き詰めることができる環境が、ここにはあると思います。

所　属	健康福祉学研究科 （社会福祉学部社会福祉学科）	氏　名	宮﨑　まさ江

私は、山口県下関市で生まれ育ちました。高校卒業後に県外に出て、東京都豊島区では精神科ソーシャルワーカーとして、長野県上田市では社会福祉学部の教員として勤務し、2012 年に故郷に戻って参りました。

大学院担当としては経験が乏しく、院生の皆さんに教わることのほうが多いと思いますが、ご一緒に有意義な学びの時間をもたせていただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

担当科目	臨床福祉学特論（前期課程）

○研究活動

専門は、地域精神保健福祉です。

私の出発点は、精神障がいのある人々の地域生活を支援する事業体でのソーシャルワーク実践となりますので、これまでは、主に精神障がいのある人々の地域生活支援に関する研究や諸活動に取り組んで参りました。なかでも、精神障がいのある人々の権利擁護に着目し、誰にとっても暮らしやすい、やさしい社会の実現に向けて、地域住民と連帯・協働しながらソーシャルワーカーとして何ができるのか、法制度やサービス、社会全体の現状や動向をふまえた検討を進めております。

○担当科目（授業）の様子

「臨床福祉学特論」では、地域を基盤としたソーシャルワークの基本的な考え方や展開方法について、現場の状況および諸課題の整理・分析をとおして実践へとつなぐ視点や技術を磨き、高めることをめざしています。

私たちをめぐるソーシャルワークの諸課題に対し、「もし現場で実践するとしたら…」といった観点から学びを検証したり、具体的行動や対応策を検討するためのディスカッションを積み重ねたりしながら進めて参ります。

院生の皆さんの問題意識や学びの背景、ご実践等を存分に活かしていただき、相互に学び、高め合うことのできる雰囲気のなかで授業が展開できるように心がけたいと思っております。

所　属	健康福祉学研究科 （社会福祉学部社会福祉学科）	氏　名	藪本　知二

「創作」料理という名前のない料理
を作ることが趣味です。

担当科目	権利擁護特論（前期課程）

（１）大学院で学ぶこと、研究することの楽しさとしんどさを感じてください。

（２）民法学、特に家族法学（特に親権法制）を専攻しています。法比較の対象としては、アメリカ家族法（特に child custody）です。また、大学院生の頃から、家族という現象を理解するために、精神分析学や家族の社会学を学んでいます。

院生の頃から、子どもの権利（the right of the child）について研究を進めています。また、社会福祉学部の科目を担当していますので、成年後見制度についても新しい成年後見制度がスタートしてから研究するようになりました。行為能力が制限されている者という点では子ども（未成年者）と同じですから、子どもと比較しながら成年被後見人等の特性に留意しつつ取り組んでいます。

（３）講義科目ですので、私が講義する形で進行しますが、少人数ですので、随時、院生のみなさんと質疑応答しながら、進めています。時には、法律相談風になることもあります。

所　属	健康福祉学研究科 （看護栄養学部栄養学科）	氏　名	内田　耕一

下関で生まれ育ちました。山口大学入学後、囲碁部で強い先輩方に連れられて、団体戦全国６位入賞を果たしました。山口県立大学に参りましてからは、運動不足を痛感し、トレーニングを続けて体力づくりに励んでおります。掃除機での掃除は好きなのですが、部屋の片づけは苦手です。すぐに書類の山に埋もれる特技があります。キレイが続くシステムをご存知の方はお知らせください。

担当科目	病態栄養学特論（前期課程） 臨床栄養学講究（後期課程）

もともと消化器内科が専門です。特に、肝疾患―その中でも劇症肝炎の治療や肝硬変の治療について研究してきました。また病院内で栄養サポートチームに属しておりましたので、各疾患の栄養治療について検討してきました。
また最近では増加傾向にある高度肥満症患者さんの治療についても検討しています。

山口県立大学では、卒業研究生の皆さんと一緒に持続血糖測定器(CGMS)を使って、肝硬変患者さんの血糖の日内変動とそれに影響を与える因子について研究しています。CGMSのデータを基にどのようなことが考えられるのか、ゼミの皆さんと試行錯誤しています。

大学院生さんへ期待すること
自分の興味が持てることについて、とことん追求することができるのが大学院だと思います。
いろいろな考え方を学んで、チャレンジしてほしいと思います。
私自身も研究生活では主任教授に「ベトナム戦争」といわるほど、先が見えない実験生活を経験いたしました。当時はひたすら手足を動かしていたばかりですが、粘り強く挑んでいると何とかなるものだと学びました。本当に今となっては貴重な経験です。
大学院生の皆さんにも結果も大切ですが、研究過程そのものも楽しんで頂けるように、一緒に頑張りたいと思います。
是非、大学院にお越しください。

授業では院生の皆さんに話してもらうことが主体です。いろいろと幅広く勉強したいと思っています。

所　属	健康福祉学研究科 （社会福祉学部社会福祉学科）	氏　名	上白木　悦子

大学院では、提供された情報にも疑いをもって、
自ら探求してみることも重要です。
できる限り多くのことを探求し、学んでください。

担当科目	健康福祉倫理学特論，国際健康福祉学特論（前期課程） 健康福祉倫理学講究（後期課程）

主に、患者の意思決定支援に関する研究や終末期医療の倫理問題等、医療福祉分野の倫理問題に関する研究を進めています。

医療倫理の諸課題について、自らの関心に引き寄せて考えていただければと思います。
大学院で学ぶことと実践の場の現状を比較し、各自、実務のあり方を検討してください。

所　属	健康福祉学研究科 （副学長／看護栄養学部看護学科）	氏　名	田中　マキ子

趣味

運動すること：若かりし頃

スキー、バトミントン

現在

バレーのバーレッスン（体は固い！）

韓国ドラマ、だ～い好き。

ケーキづくり。定年退職後は、ケーキ屋さんを目指す？

担当科目	臨床看護学特論（前期課程） 臨床看護学講究（後期課程）

【研究活動】

学位論文では、看護師にみられる Burnout 状態に関する要因解明を試みました。質問紙調査やインタビュー調査を重ね、看護師の養成課程から現任教育（看護資格を取得後の現場での教育）の過程を通して、Burnout に至る原因が存在することを指摘しました。

大学院では、超高齢社会の到来から、健康長寿の要因解明にてがけはじめ、百寿者研究を継続して行っています。前期課程（修士）、後期課程（博士）の必須科目である健康福祉学特論/講究において、毎年ユニークな視点での検討が行われています。この課題については、ハワイ大学（米国）や慶北大学校（韓国）とも共同研究を行っているので、毎年院生さんたちにご参加いただいています。

学部教育との重なりでは、褥瘡（じょくそう＝床ずれ）に関する書籍を出版し続けています。ポジショニング（体の動かし方）を中心とする内容ですが、つづければ続けるほど、新たな課題が見つかるのは、不思議です。

【大学院生さんへ期待すること】

一人の人間として、私の心情とする言葉に「脱皮しない蛇は死ぬ　脱皮しない人間は他人を死なせる」（むのたけじ）があります。日々、なにかしら、昨日とは違う自分でありたいと願うからです。私は、臨床の看護師、学校・短大の教員を経て、大学院に進学しました。大学院に進学した時が、私が学べる「時」だったんだと思います。学び・極めたい何かがあるとき、見つかった時、是非大学院の扉を開けてほしいと思います。そこには、無限の世界が広がります。学び・追及する世界に限界はないと思います。私も今だに迷宮の世界におります。大学院を目指されるみなさんと共に、迷宮の世界で、おもっいきり迷い・悩みませんか。脱皮する自分を確認するために・・・・。

所　属	健康福祉学研究科 （社会福祉学部社会福祉学科）	氏　名	中村　文哉

沖縄社会のこと、特にハンセン病を患った人たちのことに、関心があります。差別・疎外・異化をめぐり、自らの生活誌や記憶の変容が如何に起こるか、あるいは如何に起こらないかを問う社会理論の構築を考えています。社会学と哲学(現象学)の中間領域に足場を置くような人間論の展開。

担当科目	社会学特論（前期課程） 健康福祉学講究（後期課程）

先人の知見に学びつつ、自分の頭で考え、それを文章におとしていくことは、簡単なことではありませんが、この作業からは、とてつもない深遠な世界が開かれてきます。自分で読み、調べ、考え、書くには、やはりテーマが重要になってきます。テーマを自分で引き出し、それについて他者と議論をして、一つの問いを定立することが、すべての第一歩になると考えています。どの様なテーマと出会うか。それは、運命的・偶然的なところを多分に含むと意われますが、日常生活における些細な出来事に、それへの通路が横たわっているのかもしれません。

所　属	健康福祉学研究科 （高等教育センター／看護栄養学部栄養学科）	氏　名	ひとみ　えり 人見　英里

研究分野：栄養生化学、食品機能学
所属学会：日本栄養・食糧学会、日本栄養改善学会、日本食品科学工学会、日本家政学会、日本農芸化学会、日本食生活学会等
メッセージ：種々の食品（健康茶、山口県産野菜・柑橘等）が生体機能に及ぼす影響について研究をしています。また、健康食品に関する資格（NR・サプリメントアドバイザー）を持っていることから、健康食品に関しても興味を持っています。

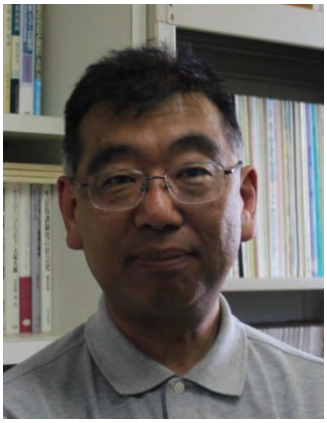
担当科目	健康栄養学特論（前期課程） 健康栄養学講究，健康福祉学講究（後期課程）

以下のような研究テーマに対応が可能です。基本的には、実験系のテーマを行っていますが、他の先生方のご協力も得て、アンケートなどを実施する調査系研究の指導をする場合もあります。

◆これまでの大学院生の修士論文テーマ
○ビタミンＥ欠乏ラットに対するルイボスティー投与の影響（平成 12 年度修了）
○ルイボスティー、杜仲茶の抗酸化能及び肥満抑制作用の検討（平成 16 年度修了）
○地域の食材を利用した家庭科教育法の検討（平成 22 年度修了）
○職種間連携による病棟での栄養ケアに必要な要因の検討（平成 27 年度修了）
○褐藻アカモク *Sargassum　horneri* の利用と食品機能性に関する研究（博士後期課程在学中）

◆学部学生（看護栄養学部栄養学科）の卒業論文テーマ（抜粋）
○徳地産カワラケツメイ茶の機能性
○山口県特産柑橘「長門ユズキチ」の機能性
○はなっこりースプラウトの肝解毒酵素誘導能
○植物性食品における抗酸化性測定法の検討
○野菜類の調理・加工による抗酸化能の変化
○グリーンルイボス抽出物およびアスパラチンの血糖値上昇抑制作用
○イチゴ葉有効利用法の検討
○袋掛けの有無がリンゴの品質の及ぼす影響
○グリーンルイボスと運動の併用が代謝に及ぼす影響
○柑橘果汁がしらす干しのカルシウム可溶化に及ぼす影響
○山口県産褐藻アカモクの食品特性について

所　属	健康福祉学研究科 （副学長）	氏　名	横山　正博



現在、取り組んでいる研究
　地域包括ケアシステムにおける多職種連携
　看取りにおける多職種連携（医療と介護の連携）
現在、関心のあること
　レノファ山口 FC の J1 昇格
　乃木坂 46 のチームワーク形成過程における規範的統合理論の構築（単なる西野推し）

担当科目	健康福祉学特論応用演習（前期課程） 地域ケア論講究（後期課程）

研究テーマ（指導できる分野）
　地域包括ケアシステムの構築　在宅医療と介護の多職種連携・協働
　介護人材確保　ケアマネジメントの評価
　ソーシャルワーク実習教育方法

現在の院生の研究テーマ
　地域包括ケアシステム構築における訪問看護師の役割（看護師）
　慢性疾患児をめぐる養護教諭の多職種連携（元養護教諭）
　過疎地域の地域リハビリテーションの課題（理学療法士）
　日本におけるファミリーソーシャルワークの可能性（児童家庭センターソーシャルワーカー）
　多様な職種の集まりですので、ご自身の専門の分野に限らずご相談ください。

授業内容
論文指導（健康福祉学研究・健康福祉学特別研究）
　前期課程の院生には、研究の初歩から紐解き、本当に自分が取り組んでみたい研究テーマとなっているかを点検していきます。また調査方法、統計解析の方法や質的分析の手法について教授します。後期課程の院生には、自分で調査設計し結論を導く方法について教授します。研究計画にそって、研究が進捗しているか確認し、多角的な考察ができているかを点検していきます。
健康福祉学特論応用演習
　事例研究を中心に、1 ケースの事例を徹底的に分析し、課題解決の方法について議論を重ねながら、追究していきます。

所　属	健康福祉学研究科 （看護栄養学部看護学科）	氏　名	佐々木　直美

趣味：家族で一緒にファミレス、回転寿司などを食べるのが好きです。また、気分転換をするために、難しくない本を読むことも好きです。

担当科目	臨床心理学特論（前期課程） 臨床心理学講究（後期課程）

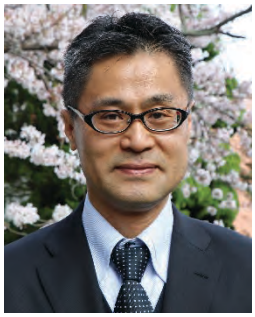
大学院生さんに期待すること

私は、これまでの人生で記憶に残っているのは、大学生活よりも大学院生活です。論文を書くために日夜努力をし、夜中の郵便局に、投稿するための論文の入った封筒を持っていくときの快感は今でも忘れられません。学ぶということは簡単ではないけれど積み重ねていけば必ず実るものだと思いますし、また学会に行ってさまざまな研究者の顔を見たり話を聴いたり、その雰囲気に触れることは、研究者の一員として大きな刺激をもらいます。その世界に皆さんは入ろうとされていますが、ぜひ、人生のワクワク感を本大学院で体験して欲しいと思います。人生の選択肢が増え、深みが出てきますよ。

これまでの研究活動

これまでの研究活動は、高齢者の心理支援について長く研究してきましたが、ここ数年間は不妊予防の心理支援やセクシュアルマイノリティに関する研究に関心があります。それらは臨床心理学の領域では王道ではありませんが、だからこそ表からは見えない、しんどさを抱えておられるという点で心理支援が必要ではないかと思っています。

所　属	健康福祉学研究科 （　教務学生部　）	氏　名	曽根　文夫



学部では健康体力科学や健康スポーツ理論などの授業を担当しています。運動による健康づくりに興味のある方はどなたでも歓迎致します。山口県立大学大学院でいっしょに学びを深めてみませんか。

担当科目	身体運動科学特論（前期課程） 身体運動科学講究（後期課程）

[これまでの主な研究活動]

労働を含む日常生活において、私たちは身体的および精神的なストレスを受けます。私たちの体にはこれらのストレスに対して内部環境を維持するための調節機構や防御機構が備わっていて、休養や栄養を適切にとっていれば正常な機能を維持することができます。しかしこれらのストレスが過度になったり(過労)、暑熱、寒冷、寝不足といったストレスが複合的に加わると、体調不良ひいては病気を患うことになります。私はこれまで複合的なストレス（運動、暑熱、寒冷、立位姿勢、メンタルストレスなど）環境下での、生体の神経性調節機構と適応機構について、特に体温調節と循環調節の面から研究してきました。

[ゼミ（授業）について]

「身体運動・スポーツ」の実践が、生活習慣病の予防、体力の維持、精神的ストレスの解消等を通して心身の健康づくりに寄与することはよく知られています。しかしこれらの運動効果の詳細なメカニズムや効果的な運動法については、まだわからない事が多く残されています。ゼミでは運動や環境（特に温熱環境）が人の健康や体力に及ぼす影響について、最新の知見を踏まえながら考察していきます。生理学的な話が多くなりますが、学生の興味･関心になるべく沿うように授業を進めていきたいと考えています。

[大学院生へのお願い]

大学院生の皆さんには、先達が積み上げてきた研究成果に敬意を払いながら、新しいことに挑戦していく勇気を持って頂きたいと思います。研究を通して自分がどのように社会に貢献できるかを考えることは必要ですが、それが机上の空論に終わらないように、体を動かして調査・実験して新しい情報を得て、それらを社会に向けて発信していくことが求められます。そのような研究のプロセスを通して、新しいことを発見する喜びを感じて頂きたいと思います。

所　属	健康福祉学研究科 （看護栄養学部看護学科）	氏　名	吉村　耕一

高齢者の健康を脅かす循環器病の仕組みを解明し、新しい治療法を開発する研究を行っています。

担当科目	健康福祉学特論，健康福祉学特論演習（前期課程） 健康福祉学講究（後期課程）

健康福祉学研究科の前期課程と後期課程の両方において、必修の科目を担当しています。これらの授業の目標は、まず第一に、医療、看護、栄養、福祉等の幅広い視点から、人々の健康維持や生命と生活の質の向上に関する理解を深め、健康福祉学の新たな課題の発見に繋げることです。次いで、見出した課題の解決に繋がるような研究を立案し、実践し、得られた研究成果を発信できるような研究力を養うことです。院生さんが研究を通じて社会に貢献できるよう、その手助けができたらと願っています。